

林賢一さん（大工）



一本一本、魂入ってるんですよ

工場に入ると、木のいい香りに包まれた。真っすぐに製材された大量の杉。墨で書いた目印に合わせ、木材同士をつなぐ「継手」や「仕口」と呼ばれる凸凹加工が施されている。

「これ、全部手刻みです。自分の手でやる仕事がしたくて。設計から内装まで、基本は1人で全部やります」と林賢一さんが話す。

大工歴17年。今から約2年前に、大正中津川の実家で建築事務所を開いた。多くの住宅で使われるプレカット材ではなく、のこぎりや鉋、のみなどの道具で仕上げる「手刻み」の建材で家を造っている。

梶原町境に程近い、山あいを開けた実家は代々続く林業の家系。林さんは高知工業高校で建築を学び、卒業後は高知市内の工務店で約10年働いた。

当時手掛けたのは、高気密・高断熱で、直線的な外観のいわゆる「現代の家」。外気の影響を受けない1年中快適な家に、違和感を覚えた。「快適過ぎるというか、やっぱり夏は暑いもんやし、冬は寒いもんじゃないですか。暑さ寒さをしのぎながら、自然の風をちゃんと入れる家の方が僕は好きで」

心引かれたのは伝統的な日本家屋の造りだった。「いずれは自分がやりたい家造りを」。3人目の子どもが生まれる時に帰郷し、伝統的な手刻みの仕事を続ける芝工務店（十川）で働き始める。プレカット材には必要なかった、昔ながらの大工の技術に驚いた。

「もう単純に、のこぎりでぴたっと木を切るところからのスタート。それまでの経験が1回ゼロになったみたいな」。刃の研ぎ方一つから先輩の職人に聞き、教えてもらった。

独立し、「デビュー作」として自分の家を建てた。実家の山から切り出し、手で製材した木材を使い、壁には土佐漆喰を塗った。湿気が少なく、木の香りがするわが家。実際に住んでみて、日々その良さを実感するという。

「手刻みは全部の木に1回触れるわけです。一本一本、曲がりもくせもあって表情が違う。変な話ですけど、魂入ってるんですよ、本当に」

すーっと鉋をかけた木の表面は、滑らかで美しいツヤが出る。静かに、家に生まれ変わる時を待っているかのようだ。

町にはこんな waza も

ちよい waza!! 嗅覚が人一倍鋭い！ 石田彩翔さん 仁井田小学校5年

ソフトボールの練習後、手袋や帽子の忘れ物があると、匂いを嗅げばチームの誰のものか判別できる。「まだ1回も外れたことない」。植物の香りにも敏感で、「白い花の匂いが爽やかで一番好き」という。

こだわりの「技」できらりと光る四万十町の人々を紹介します。ちよいwaza!!は随時募集中! ▶



四万十高校の魅力

学校ホームページが新しくなりました。
<https://sites.google.com/g.kochinet.ed.jp/shimanto-h>
noteも始めました。公式Instagramと併せて、ぜひフォローしてください！！



部活動紹介



ドローン部

ドローンをゆっくり動かしたり移動方向を変えたりなどの操作の精度を上げる練習をしています。また昨年度は、校外活動として、米こめフェスタのドローン体験の補助員を行いました。今後は立体的な映像や四万十高校の動画の作成などをしたいと考えています。



自然環境部

月1回の水質調査や生き物の飼育を5名で行っています。昨年度は、理科室にある約120cmの水槽の清掃を行い、魚の飼育環境を整備して、古代魚を飼い始めました。個人の研究活動も行っており、今年度も引き続き行っていきたいと考えています。



じゅうく。

#地域で挑戦する、高校生たち



4月に入り、「じゅうく。」でも新年度の授業がスタートしました！

生徒たちは、学校や部活が終わってから来塾。集中して頑張っています。

生徒各自の目標達成や進路実現に向けて、引き続きスタッフ一丸でサポートしていきます。

【お問い合わせ先】 町営塾「じゅうく。」 ☎050-5482-3339

人材育成推進センター ☎22-3163